

抗 Jra抗体保有患者への不適合輸血の一症例

音羽 裕子, 川越 善子, 辻内 智美, 辰己 節美, 稲垣 明 (奈良県立奈良病院)
八木 秀男, 西野 正人

【はじめに】

安全な輸血療法の実践には、不規則抗体検査が不可欠であり、37 反応性の抗体が検出された場合は、その抗体の確定と抗原陰性適合血の供給が必要である。今回々は、患者血清中に抗 Jra抗体を保有するもその同定が困難であったため、やむをえず不適合輸血を行った症例を経験したので報告する。

【症例および経過】

患者 70歳女性。血液型 AB(+)。輸血歴無し。妊娠・出産歴 1 回。既往歴は 7歳時、乳癌にて左乳房摘出術施行（無輸血）。今回、急性くも膜下出血にて当院救命センターへ搬送され緊急手術を実施された。術前の不規則抗体検査は陰性であり術中術後に MAP14 単位、FFP6 単位を輸血。術後 6 日目の不規則抗体検査で、スクリーニング・ディエゴ・同定用パネルの全ての血球に (±)~(3+) の凝集を認め、DAT 陽性で解離液は抗体活性を認めなかった。院内では同定困難であったため血液センターに同定を依頼するも精査に数日を要し、術後 10 日目に進

行する貧血のため MAP2 単位を輸血。術後 12 日目に抗 Jra 抗体が同定された。幸いにも明らかな副作用は認めず、十分な輸血効果が得られた。Jra 抗体の力価は術後 10 日目で 256 倍、15 日目で 512 倍であった。患者は術後 36 日目に頭蓋形成術、V-P シャント施行（術中回収式自己血輸血を実施）後、術後 48 日目に無事退院された。

【まとめ】

今回の症例は、抗体価の推移より約 40 年前の妊娠により抗 Jra 抗体を産生したものと考えられるも、術前の不規則抗体検査では検出感度以下であった。本症例の経験より、高頻度抗原に対する抗体の検出並びに同抗原陰性血の供給には血液センターの全面的な協力が必要であると考えられた。

連絡先 県立奈良病院 中央臨床検査部 内線 2380